

上北島花畑遺跡Ⅱ

筑後市大字上北島所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第87集

2008

筑後市教育委員会

序

この報告書は、宅地造成に伴って平成 19 年度に行なった、発掘調査の成果をまとめたものです。当遺跡は、著名な狐塚遺跡や刻目凸帯土器を出土した上北島塚ノ本遺跡に連続する形で展開していて、その関連が注目される地域にあります。

今回の発掘調査では、調査区が狭小であったために、目立った遺構遺物はありませんが、本書が地域の歴史解明や、文化財愛護に活用されれば、望外の喜びです。

最後になりましたが、現地での発掘調査から本書の刊行に到るまで、御助力御協力いただいたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

平成 20 年 3 月

筑後市教育委員会
教育長 城戸一男

例言

1. 本書は、筑後市教育委員会が平成 19 年度に実施した上北島花畑遺跡第 3 次調査の成果を収録したものである。
2. 発掘調査および出土遺物の整理等は筑後市教育委員会がおこなった。調査関係者は第 1 章に記したとおりである。なお、出土遺物・実測図・写真等は筑後市教育委員会で収蔵・保管している。
3. 本書に使用した図面のうち、遺構実測図は永見秀徳が、遺物実測図は、丸山裕見子（元興寺文化財研究所）が作成した。また、製図は、丸山、永見が行なった。
4. 本書に使用した写真は、すべて永見が撮影した。
5. 本書での報告にあたり、遺構番号を次のように決定した。調査時につけた遺構仮番号を生かし、頭に調査回数、遺構種別を加えた。今回は第 3 次調査であるため、S-1 が溝である場合、3SD01 となる。
6. 本書に用いた方位はすべて G.N. を、水準は T.P. を基準としていて、座標は第 II 座標系に属している。また、座標値は世界測地系（測地 2000）によった。なお、遺構の主軸等の方位は実測図上で分度器を用いて計測した。北から 45° 東にあたる場合、N-45°-E と表記した。
7. 本書の執筆および編集は永見が行なった。

目次

第 I 章	はじめに	1
第 II 章	位置と環境	1
第 III 章	調査成果	2
第 IV 章	まとめ	4

第I章 はじめに

本書は、平成19年度に実施した上北島花畑遺跡第3次調査の成果を収録したものである。この調査は、宅地造成工事の予定地のうち、道路新設によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。

平成18年度に、事業主である飛鳥コーポレーション（代表者：中富正徳）から筑後市教育委員会に対して、当該地が埋蔵文化財包蔵地か否かの照会がなされた。筑後市教育委員会では、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（上北島塚ノ本遺跡）の隣地であることを回答し、試掘調査の必要があることを通知した。

この回答を受けて事業主は筑後市教育委員会に試掘・確認調査を依頼した。調査の結果、敷地全体に遺構が存在することが明らかとなり、道路部分は永久的構築物であるため、工事着工前に記録保存のための本調査が必要であることを回答した。協議の結果、道路以外の部分は、盛り土による遺構保全をおこない、道路部分のみ記録保存のための本発掘調査を実施することとした。係る費用は事業主が負担することで合意した。

なお、調査関係者は以下のとおりであった。



Fig.1 試掘トレンチ配置図 (1/2,500)

総括	筑後市教育委員会	教育長	城戸 一男
		教育部長	平野 正道
庶務		社会教育課長	田中 僚一
		文化スポーツ係長	北島 鈴美
		文化スポーツ係	小林 勇作（文化財専門職）
		”	上村 英士（ ” ）
		”	吉村由美子（文化財学芸員）
調査担当		文化スポーツ係	永見 秀徳（文化財専門職）

なお、調査から報告書刊行に到るまで、以下の方々から貴重なご指導ご教示をいただいた。担当者の力量不足もあって、いただいたご指導御教示を活かしきれなかった部分も多々あるが、記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

水野正好（前奈良大学）、佐田茂（佐賀大学）、岸本圭（福岡県教育庁）、大塚恵治・立石真二（以上、八女市教育委員会）、狭川真一（元興寺文化財研究所）

第II章 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の南西部にあたる。市域をJ R 鹿児島線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜め池が点在する。

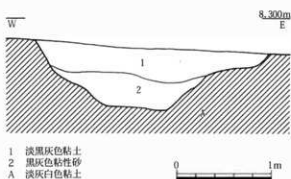


Fig.4 3SD01 土層断面実測図 (1/40)

の調査区に近接するかたちとなる。調査対象面積は約 300 m²で、極めて狭小な調査区設定となった。

また調査の時期が梅雨と重なり、現況が水田であったことも手伝って、調査開始前に調査区設定予定箇所が激しく水没するなどした。調査開始後も常時湧水があり、排水作業を行いながらの調査となった。

遺構

調査区の大部分を大溝が占める結果となった。したがって、調査時には、地山の認識に大変苦労した。大溝以外の遺構は確認できなかった。また、前述したように湧水があったため、遺構底面の確認には手間を要した。

3SD01 (Fig.4)

調査区に沿って、調査区の大半を占める大溝である。調査区の北端で、幅 2.5 m 深さ 0.6 m を測る。幅は、広いところで約 5.5 m を測り、深さは深いところで、0.5 m である。断面形状は、大きく崩れた逆台形で、東側には棚状の段がある。底面も平坦ではなく、深くなったり浅くなったりと安定しない。

形状から水路跡であると考えられる。底面の標高を概観すると、北から南方向に流下していたとみられる。調査区内を蛇行しながら南流し、調査区東側に隣接する現況水路に沿って延びているものと考えられる。

出土遺物は、土師器（土鍋・甕）がある。

遺物

出土遺物は、ごく僅かな量を確認したにとどまった。全体でパンコンテナー 1 箱に満たないほどである。遺物はすべて 3SD01 から出土した。

3SD01 (Fig.7)

すべて I 層から出土した土師器である。1 は土鍋の口縁部である。玉縁状となる特徴的な形状のものである。1 ~ 3mm 大の砂粒を多量に含むやや粗い胎土で、焼成もやや不良である。器面は内外面とも、鈍い黄茶色を呈している。

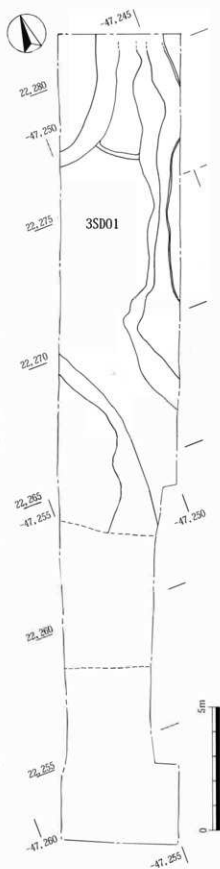


Fig.5 遺構全体配置図 (1/200)

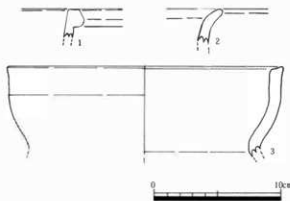


Fig.6 出土遺物実測図 (1/3)

2と3は裏の口縁部である。2は、外反する口縁部の資料で、口唇部は丸く収めている。口縁部は横ナデ調整が施されている。胎土は1mm大の砂粒を多く含むやや粗いもので、焼成はやや良い。外面は淡黄灰～黄灰色を呈し、内面は暗黄茶色である。

3は二重口縁が崩れたような形状の口縁部の資料である。結果として内湾しながら立ち上がる口縁部となっている。口唇部上面には比較的明瞭な面を形成し、面は内面側が僅かに低く傾いている。また、口唇部の外面側の縁は上外方に向かって小さくつまみ出されている。全体的に器壁は厚くなっている。

第四章 まとめ

今回の調査区設定は、分譲地内の道路予定部分をその対象とした。しかしながら、試掘調査の時点で道路の位置が明らかでなかったため、当該箇所には試掘溝の設定を行わなかった。そのため、本調査開始時点では検出される遺構の予想が全く立てられなかったし、遺構密度についても検出しながら把握する状態であった。遺構検出を終えてみると、今回の調査では、調査区の殆どを3SD01が占有し、地山が殆ど見えないという状況であった。したがって、ここでは3SD01について若干の考察を加えることで、まとめに代えたい。

Fig.3の調査区位置図を見れば、3SD01は調査区の東隣を南流する水路に概ね併走することが見てとれる。この水路の古い流路が3SD01であることは、ほぼ間違いないところであろう。この水路は、大字上北島では字花畑と字塚ノ本との字界となる水路である。東側の字塚ノ本は、さらに東の字塚塚とともに、狐塚遺跡を中心とした集落遺跡が展開する地域である。今回の調査区の西側では遺構密度が希薄になる傾向を試掘調査でも確認しており、集落の主体は字塚ノ本以東にあるとみてよからう。

こうして見てくると、今回調査した3SD01は狐塚遺跡を中心とした集落遺跡の西端にあたる可能性がある。狐塚遺跡を中心とした集落は、刻目凸帯文期から弥生時代、古墳時代に営まれ、その中心は弥生時代から古墳時代の移行期であると考えられている。今回調査した3SD01の出土遺物を見てみると、当該期の遺物が中心となっており、矛盾はない。中世の土鍋も出土しているが、狐塚遺跡第2次調査では中世の水路遺構も検出されており、矛盾はない。

したがって、3SD01は狐塚遺跡を中心とする集落が営まれていた頃から南流していて、その左岸に集落が営まれていたことにならう。さらに、中世以降に直線的な水路に改修され、現在の位置に移ったものと考えられる。しかも字界として機能していることから、遅くとも近代までには改修が行われた可能性が高い。しかも、埋土中に近世遺物が認められないので、中世末までに現在の位置に改修されたと見るべきであろう。

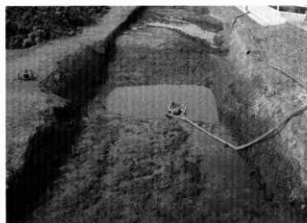
極めて小規模な調査ではあったが、地域史の一端を垣間見ることができた。まだまだ解明されない部分の多い地域ではあるが、資料の蓄積をすすめたい。

Fig. No.	遺構番号	検出時期	検出層	口径 (cm)	高さ (cm)	形状	口縁部	底内面	体内面	内底面	外面	色調	胎土	含有粒子	焼成	口縁部	備考	Fig. No.
6	2	3SD01	1	土鍋	土鍋	口縁部	丸					外・淡黄灰色 内・暗黄茶色	中・中粒	1mm大の赤色砂子・砂粒	中・中粒	両反		1
6	1	3SD01	1	土鍋	土鍋	口縁部	丸					外・黄白色 内・黄白色	中・中粒	1～3mm大の黄白色砂粒多	中・中粒	両反		2
6	3	3SD01	1	土鍋	土鍋	口縁部	丸					外・淡黄灰色 内・淡黄褐色	中・中粒	1～3mm大の黄白色砂粒多・黄粒石層	中・中粒	内湾	口縁部の先端は僅かに外反し面を形成する	3

Tab.1 出土遺物観察表



調査区全景（北から）



調査区全景（南から）



3SD01 土層断面（南から）

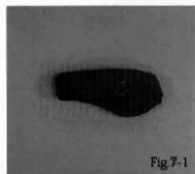


Fig.7-1

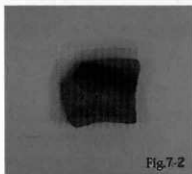


Fig.7-2

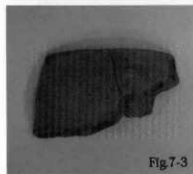


Fig.7-3

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かみきたじまはなばたけいせき							
書名	上北島花畑遺跡							
副書名	筑後市大字上北島所在遺跡の調査							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	筑後市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第87集							
編集者	永見秀徳							
編集機関	筑後市教育委員会							
所在地	筑後市大字山ノ井 898 TEL 0942-53-4111							
発行年月日	2008年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみきたじまはなばたけいせき 上北島花畑遺跡 第3次調査	ふくおかけん 福岡県 ちくごし 筑後市 おきたじま 大字上北島 あがほなばたけ 字花畑	402117	1315-27	33° 11' 42"	130° 29' 41"	平成19年 6月 と 平成19年 7月	300	宅地造成 (道路)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
上北島花畑遺跡 第3次調査	集落	古墳時代 、 中世	溝	1条	土師器			

上北島花畑遺跡Ⅱ

福岡県筑後市大字上北島所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第87集

平成20年3月31日 発行

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20

TEL 0952-71-8520(代)